

## 10 お世話になった人に挨拶をする

### POINT 1 お礼の挨拶をするとき、どうしますか。



**POINT 1** のねらいは、挨拶に適した場、方法などについても意識し、適切な挨拶ができるような場を整えることができるようにすることです。効果的なお礼のカードの書き方も身につけます。

#### 1 寮の管理人さんにお礼をしたいです。いつ、どのようにお礼の挨拶をしたらいいと思いますか。話しあってみましょう。

- お礼の挨拶がうまくいくかどうかは、言語運用力のみならず、機会をきちんと作ること、適切なタイミング、方法で伝えることも重要な要素であることを、学習者に考えさせます。いつ、どんな方法、何か渡すかについては、出身国の文化の違いなどもあるかもしれません。学習者には自由に意見を出してもらうようにします。
- 1) では、帰国直前ではどのような問題があるか、逆に2か月前などのあまりにも前すぎる時期では、どのような問題があるかについて、学習者に考えさせます。適当な時期については、文化差というより、個人差も考えられますので、2) や 3) についても答えを1つに絞る必要はないと考えられます。3) については文化からの影響が大きいと考えられます。

#### 練習1 お礼の挨拶について考えましょう。

1) で考えた「適切さ」とは、相手によっても変わってくることを、この活動によって意識します。手書きのカードがふさわしい場合、メールやSNSのほうが適している場合もあることを意識させます。

#### 2 お礼のカードは、どう書きますか。

AとBのカードの例を比較し、学習者に違いについて話しあわせます。単に書いてある量の違いではなく、どのような点が具体的に違うかを挙げさせます。Bの例には挨拶の決まり文句だけでなく、佐々木さんがどのように親切であったかの具体例、パクが佐々木さんと共有しているエピソード、今後の連絡の可能性について述べられています。また、特にBは「お世話になりました」という表現が適切な状況で使われています。「ありがとうございました」との違いについても話しあうといいでしょう。

#### 練習2 『お礼のカード』を書きましょう。

上記について注意を払いながら、自分が実際にお世話になった人を念頭に置き、自分なりのエピソードを含んだ『お礼のカード』を書かせます。書いたカードをクラスメート同士で比べてみたり、確認したりしてもよいでしょう。

## POINT 2 お礼の挨拶をするとき、どう始めますか。



**POINT 2** のねらいは、よい切り出し方を練習しておき、そのあとに続くお礼の挨拶をスムーズに進められるようにすることを意識させることです。

日常的に頻繁に起きるような場面ではないので、どのように切り出したらいいか思い浮かばない学習者も多いかもしれません。まず、最初に何を伝えるべきか、から考えてみましょう。「帰国する時期が近いので、お世話になったお礼を言いに来た」ことを最初に伝える必要があるでしょう。「ありがとうございました」でも、今まで世話になった感謝の意を示すことができますが、「お世話になりました」という挨拶のほうがより適切であることも教えるといいでしょう。お礼を伝える機会を作っておくこととともに、この部分をしっかりと練習しておくことにより、その後のスムーズな挨拶へとつなげられます。

## POINT 3 してもらったことにお礼を言うとき、どう言いますか。



**POINT 3** のねらいは、自分の具体的なエピソードを添えて世話になったお礼を伝える言い方を身につけることです。

お礼の決まり文句だけで伝えたり、相手に世話になったことを事実として述べるのではなく、両者を結び付けて、「具体的な行為に関連した感謝」を「～くださって、ありがとうございます」「～くれて、ありがとう」などの表現を使って効果的に伝えることを、ここでは練習します。そのほうがより感謝の気持ちが伝わることを意識するようにします。

### **練習3** お世話になった人にお礼を言う練習をしましょう。

目上の人に対するときと、友達に対するときとは、言語スタイルも違うことを意識して練習するようにします。

## POINT 4 思い出をどう語りあいますか。



**POINT 4** のねらいは、以下の2点です。

- 「気持ちを表す言葉」を、自分自身の実体験を交えて使えるようにする。
- どのようにしたら相手と思い出を共有しながら話すことができるかについて意識させ、一方的でなく、双方向のやり取りとなるように会話を運ぶことができるようにする。

### **1** 思い出をどう話しますか。

- まず「気持ちを表す言葉」の語彙について、確認することがねらいです。本冊に載っていない語はどのくらい知っているか、聞いてみてもいいでしょう。「ドキドキする」「イライラする」などのオノマトペについて扱ってもいいでしょう。

- どんなとときにどんな「気持ちを表す言葉」として表現するかを自分自身の経験と結びつけながら確認することにより、語彙の意味を学習者が深く理解できるようにします。

#### **練習4** 思い出を話しましょう。

ここで使うカードは、「気持ちを表す言葉」を確認しながら学生に作らせるようにします。p. 196 に挙げられている言葉以外のものを知っている語を、なるべく加えるようにします。手順は p. 197 の説明に従い、各学習者は自分がとったカードの「気持ちを表す言葉」にまつわるエピソードについて話します。この練習によって「気持ちを表す言葉」の言葉を自分の個人体験と結びつけながら再確認するようにします。

#### **練習5** 『エピソードシート』を書きましょう。

**練習4** に引き続き、「気持ちを表す言葉」を各自の実体験に関連づけて再確認し、理解を深めることができるように練習します。まず CD-ROM の『エピソードシート』を記入し、記入したことについて、クラスメートに伝えます。

## **2** 相手と共有している思い出をどう話しますか。

- ①まず、この【エピソード】をどのように相手と共有しながら話すことができるかについて、学習者どうしで話しあわせませす。「思い出の語りあい」は、必ずしなければならないものではありませんが、一定期間、親しく付きあったり、共に苦労したり、困難なときに助けてもらった思い入れのある人とは、決まり文句の挨拶言葉だけでなく、独自の印象に残る挨拶を交わして別れたいものです。
- ②そのあとに CD の会話 1 と会話 2 を聞き、違いについて指摘させませす。

### <コツ>

相手の記憶と違ったり、相手がよく覚えていないことを話し続けてしまうと、相手と思い出を共有することにはなりません。相手の記憶も確かめながら、話を進めるようにします。

## **POINT 5** 別れの挨拶をするとき、どうしますか。

**POINT 5** のねらいは以下の 3 点です。

- カードを手渡すときのスマートな言い方について確認すること。
- これからの関係継続に関することを伝えられるようにすること。
- よい余韻とともに挨拶をきれいにまとめて去ることができるようにすること。



**① お礼のカードを渡すとき、どう言いますか。**

手渡すとき、「これをあげます」などのような、文法的には正しいが事実を述べるような言い方は適切ではありません。スムーズに「これ、どうぞ」や「ぼくが書いたんです」などの言葉を添えられるように練習します。

**② これからも連絡を取りあったり、関係を続けていくために、どう言いますか。**

距離は離れてもこれからも関係を継続していくことができるよう、住所や連絡先を交換したり、「遊びに来てもいいですか」など、目上や年配の相手を考慮し、SNSだけでなく、住所、電話、PCのメールアドレスなども、お礼のカードに書いておくといいです。

**③ 最後はどのように挨拶を切り上げますか。**

この場面も日常的によく遭遇するわけではないので、学習者にとって練習なしには難しいと考えられます。挨拶をきれいにまとめ、スムーズに引き上げるにはどのように言うのがよいか。まず学習者に考えさせて話しあってみます。